

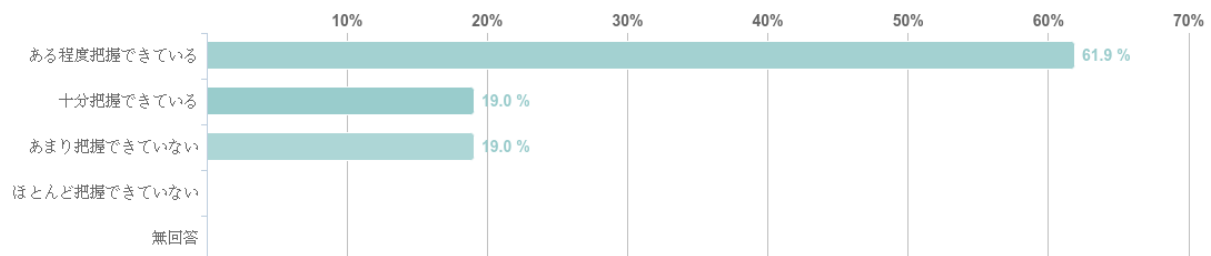
2026 年 3 月アンケート(2026 年 3 月 1 日～3 月 31 日実施)

キャリア支援業務における課題アンケート

キャリアタス UC をはじめ、さまざまなキャリア支援のツールや施策を導入され、日々学生対応に腐心されていることと存じます。今回のアンケートでは、その過程で把握された課題や対応策等についてご意見をお聞かせいただきました。よりご活用いただけるサービスを目指して、皆様の声を参考に開発を進めてまいります。

当月も多くの学校様にご協力いただき誠にありがとうございました。

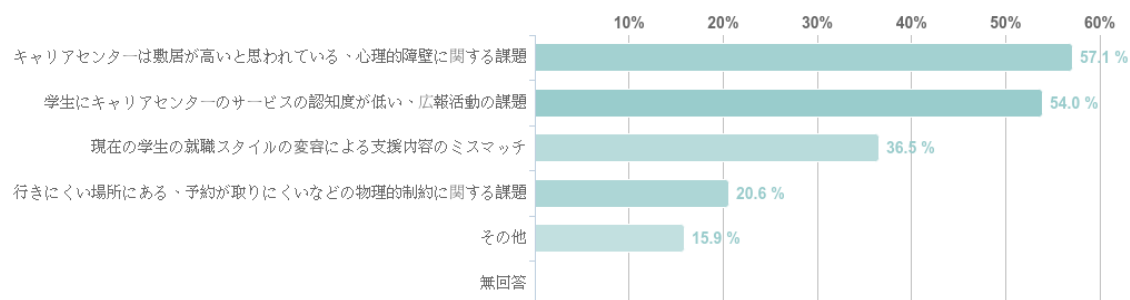
Q. 学生の就職活動状況の把握について



<サマリー>

学生の就職活動状況をどの程度把握できているか。「ある程度把握できている」と「十分把握できている」の合計はおおよそ 8 割。苦戦している声が聞かれる一方で、教職員方々の努力の結果が数字に表れる結果となりました。

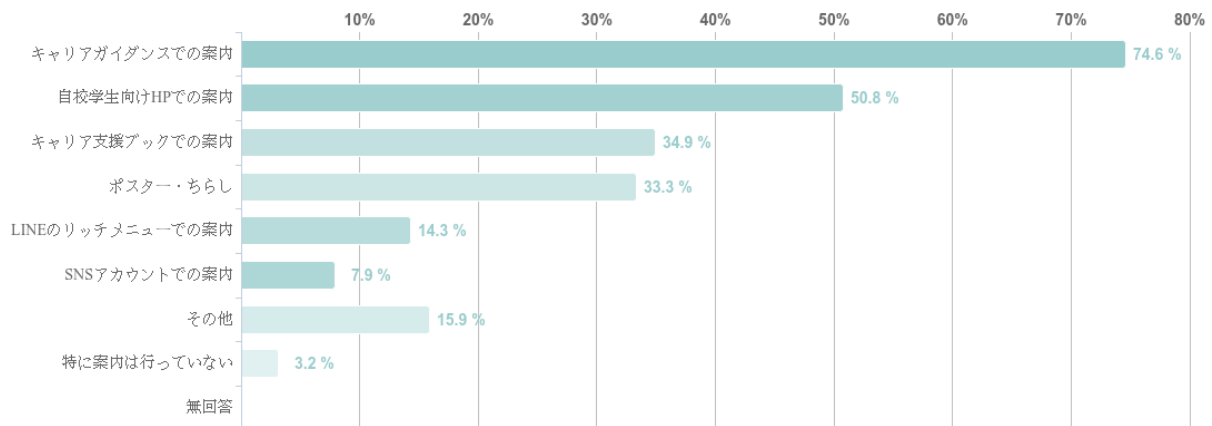
Q. 学生が学校のキャリア支援サービスを利用するにあたっての課題について



<サマリー>

学校が提供するキャリア支援サービスを学生が利用するにあたり、どこに課題があるかについては、「キャリアセンターは敷居が高いと思われる、心理的障壁に関する課題」が 57.1%、「キャリアセンターのサービスの認知度が低い、広報活動の課題」が 54.0%で半数を超えました。社会と学生との接点として、より身近な存在であることをいかに訴求できるかに課題解決の糸口がありそうです。

Q.キャリアス UC を学生に案内するために行っている施策について

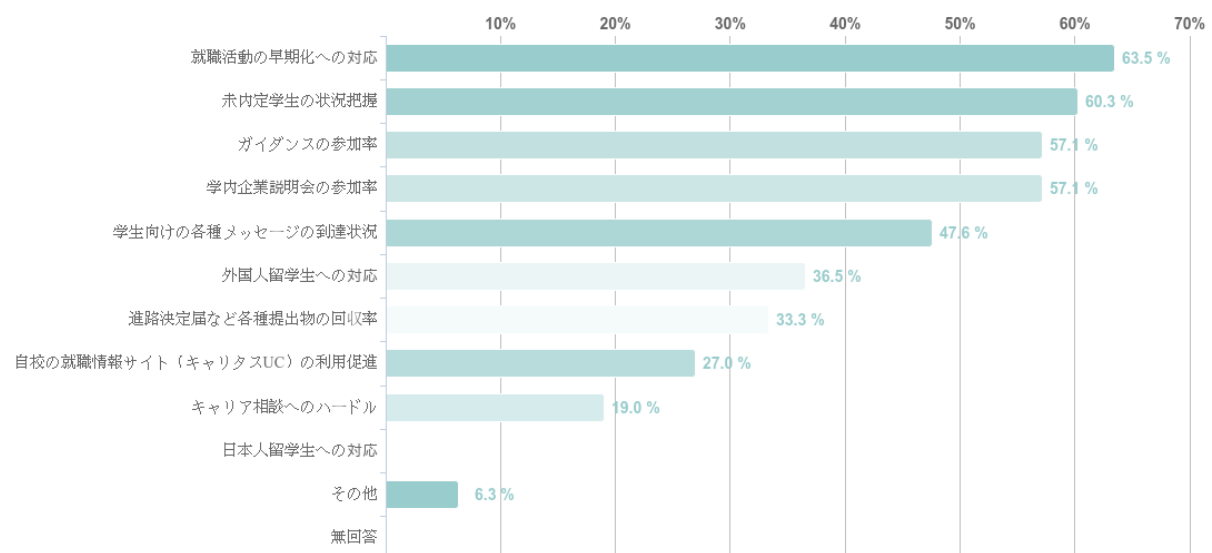


<サマリー>

「キャリアガイダンスでの案内」を実施している学校様が 74.6%と頭ひとつ抜きん出る結果に。3 分の 1 強の回答があった「キャリア支援ブックでの案内」は、キャリアガイダンス時に学生に配布し説明資料として活用されるのはもちろん、講座等でのテキストとして、また、学生がふと立ち止まった時に参照できる拠り所として、広く活用されているようです。

その他、「自校学生 HP での案内」(50.8%)、「ポスター・ちらし」(33.3%)など、露出を増やし目に止まらせる施策が上位に挙がっています。

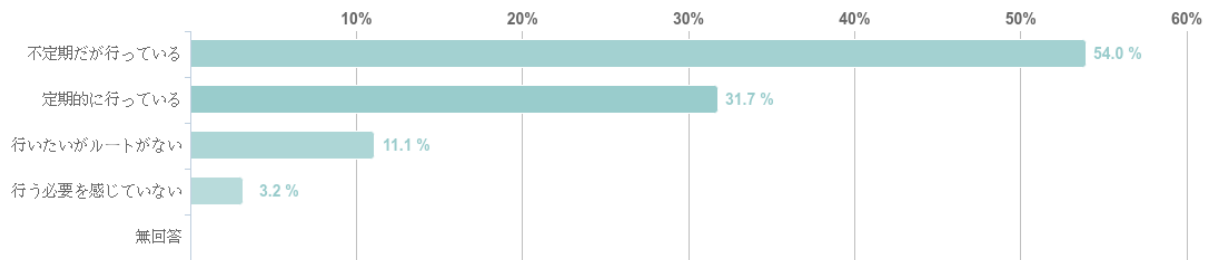
Q. 現在キャリア支援業務において課題だと感じていることについて



<サマリー>

「就職活動早期化への対応」が最多で 63.5%。令和9年度の就活スケジュールは就職問題懇談会の「申合せ」により前年度同様が維持されましたが、令和 10 年度以降は見直しが検討されるなど、流動的な要素もあり、頭を悩ませているご担当者様も多いようです。次いで「未内定学生の把握」も 6 割超の 60.3%。動きが見えづらいからこそその難しさがありそうです。

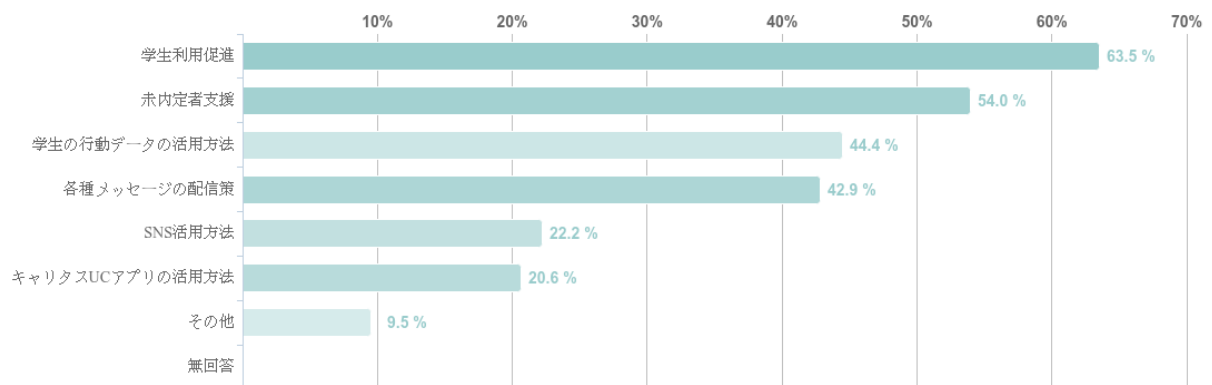
Q. 他校のキャリアセンターご担当者様との情報交換について



<サマリー>

「不定期だが行っている」、「定期的に行っている」を足し上げると 8 割強の学校様が、他校との情報交換を行っているという結果になりました。日々の学生対応に追われながらも、キャリア支援に向けての視野を広げていこうという動きが感じられます。

Q. 他校の取り組みで関心があるテーマについて



<サマリー>

「(キャリアタス UC の)学生利用促進」、「未内定者支援」が半数以上、「学生の活動データの活用方法」、「各種メッセージの配信策」が 4 割強の学校様に選ばれました。いま目の前にある課題の解決と、一歩先を見据えた方策の検討に大きく分けられる結果となりました。

ご利用校様の声ピックアップ

当月寄せられたお客様の声をいくつかご紹介します。

機能改修等へのヒントとなりますので、ぜひ毎月のアンケートで皆様の声をお聞かせください。

<キャリア支援業務で具体的にお困りの場面>

- ・各種ガイダンスや説明会への参加が少ないこと。就活の早期化や長期化による大学生活や授業への影響。(北海道・東北／私立大学)
- ・卒業後の進路について把握に難航している。また、進路決定後の提出物の回収が難しく、一人ひとり催促するのに手間がかかっている。(近畿／私立大学)
- ・特に本学では留学生が多く就職活動に対する意識が遅い。就労ビザと就職活動の厳選が困難である。(近畿／私立大学)

<キャリア支援サービスの学生利用を促すうえで貴学で工夫されていること>

- ・必須授業に参加し、就職課の認知度を高め、利用への意識的ハードルを下げるようにしている。全学科に就職担当教員を配置し、毎週学生の活動状況を集計して報告するなど情報共有を図り、活動が滞っている学生を就職課につないでいただくなど、実務を伴う協力体制を教員と築いている。(東海・中部／私立大学)
- ・キャリア教育の授業の履修者全員に登録をさせている。促しているというレベルではない。ほぼ強制。(北海道・東北／私立大学)
- ・教職員と連携し、学生へ声掛けを行っていただいています。これにより、これまで利用していなかった学生に利用するきっかけを作る工夫をしています。(関東／私立大学)
- ・低年次からのキャリアガイダンスでの案内や告知、低年次向け支援講座の実施、学内企業説明会内での相談ブース設置、その他学内掲示や各種プラットフォームを活用した掲示など(関東／私立大学)

※過去の月次アンケート結果レポートはこちらから参照いただけます。

<https://support-uni.uc.career-tasu.jp/hc/ja/articles/14884930821135>